

国産材流通について

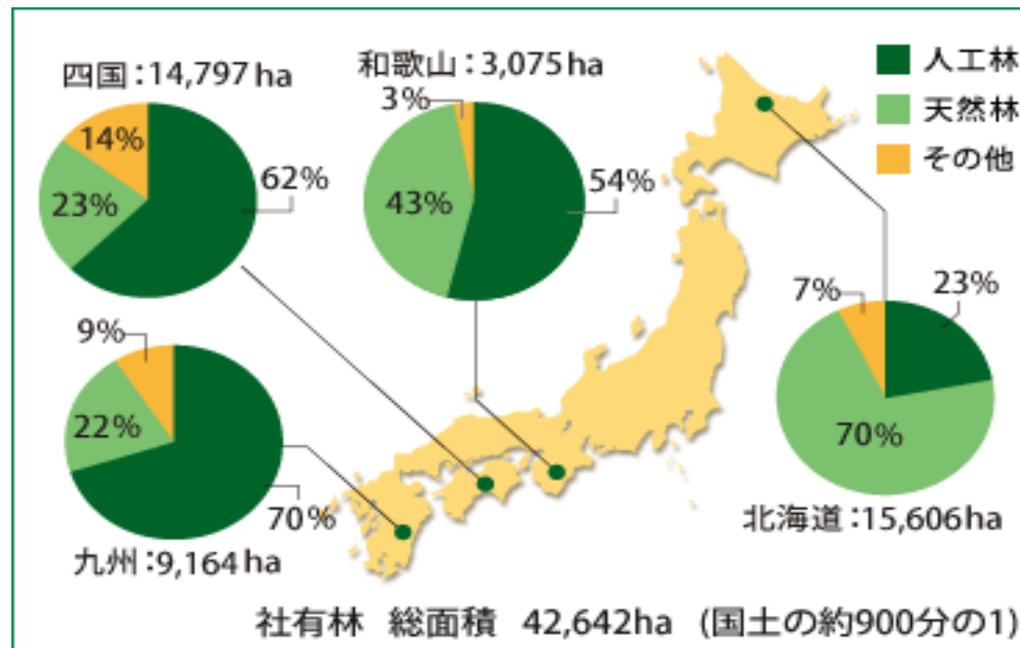
住友林業フォレストサービス株式会社

- 森林管理部 新居浜・日向・紋別・和歌山
- 森林企画部 新居浜

- 原木グループ 新居浜・日向・紋別・東京
- 製品グループ 新居浜・日向・紋別・東京・
大阪・名古屋・広島

森林管理部

- 住友林業社有林 42,642ha の管理受託
森林管理のIT化／持続可能な森林経営



森林企画部

- 保育・収穫作業
- 有力事業者とタイアップしての
林業経営の実践
- 低コスト造林の実践
- 林地残材活用の実践
- 団地化の試み

原木グループ

- 製材工場・合板工場への原木供給

原木取り扱い数量 (単位:千m³)

	製材用	合板用	チップ用	合計
09年度	178	294	24	496
10年度	175	224	20	419
11年度 見込み	248	327	76	650

製品グループ

- 住友林業の家部材・一般向け製品の取り扱い

製品取り扱い量 (単位:千m³)

	住宅向け	一般向け	合計
09年度	89	164	253
10年度	86	149	235
11年度 見込み	103	217	320

売上高

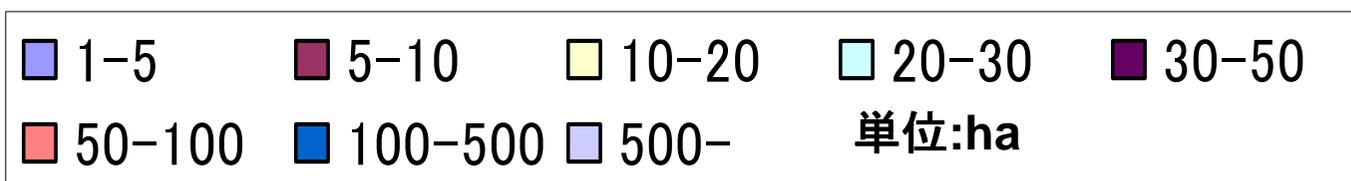
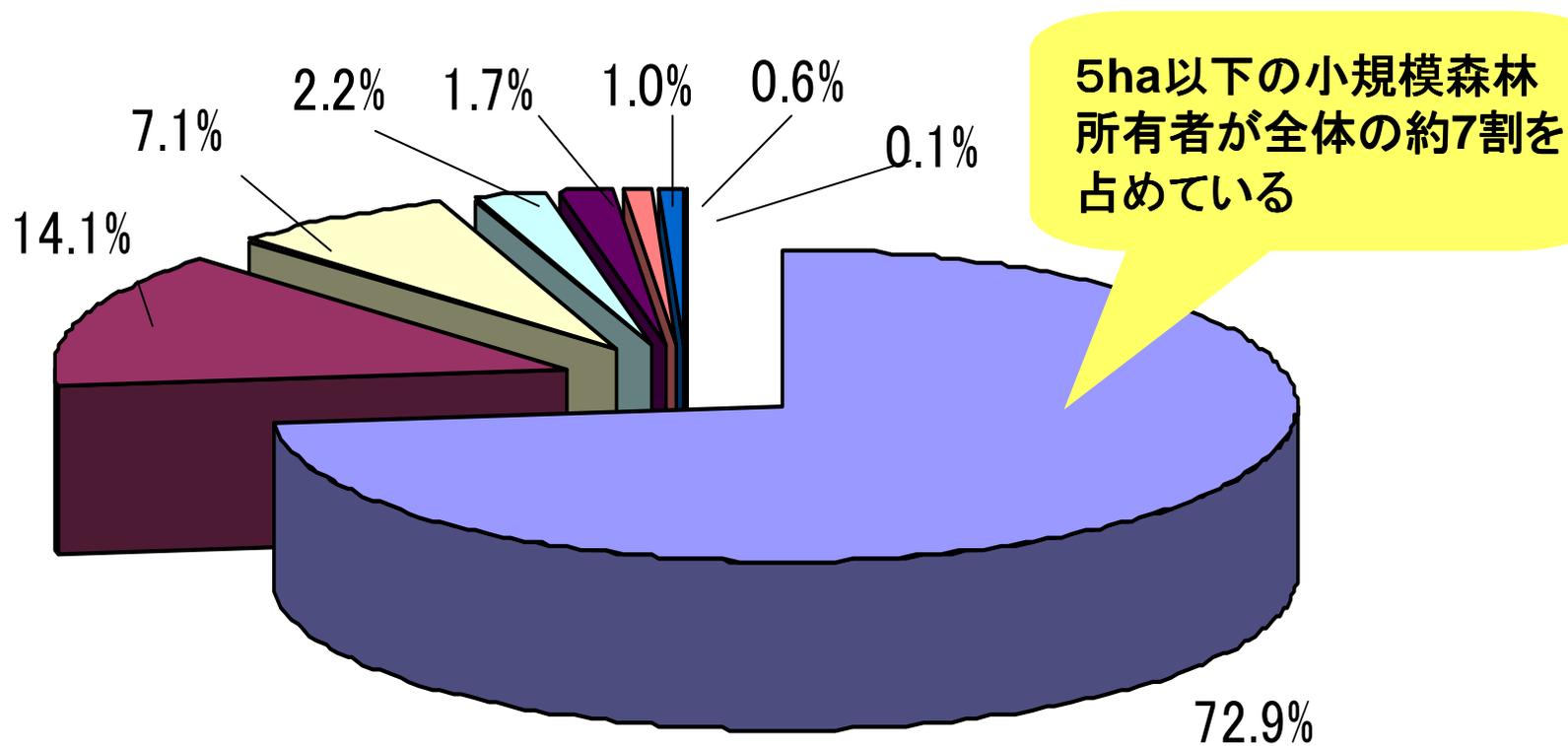
(単位:100万円)

	原木	製品	その他含む 合計
09年度	6,121	14,347	20,611
10年度	4,638	12,328	17,171
11年度 見込み	6,736	16,449	23,931

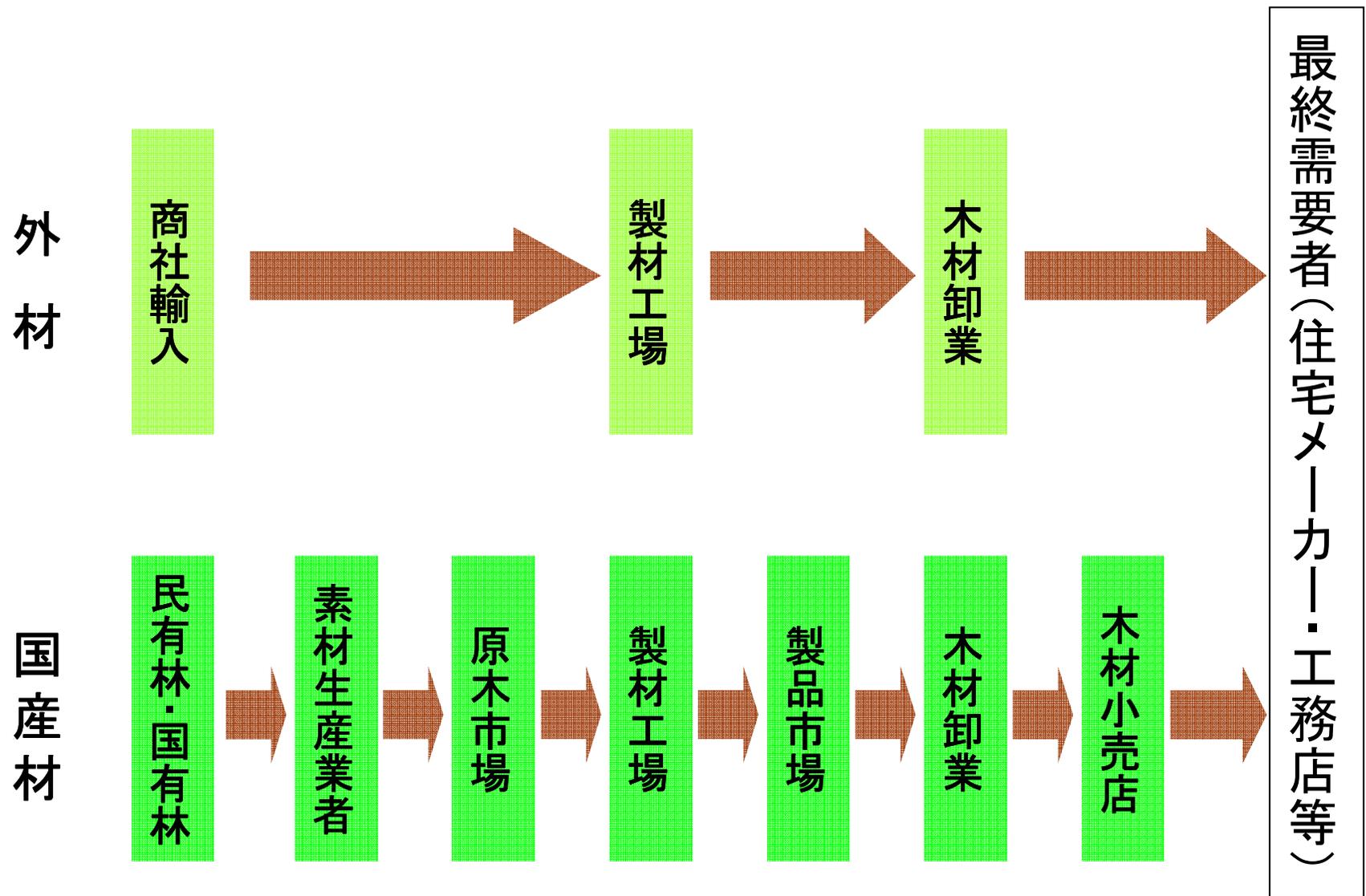
【日本の林業の問題点】

1. 所有形態が非常に小規模である
2. 伐採コストが海外に比較して高い(特に杉／ヒノキ)
3. 人工林の多くが、間伐／主伐(皆伐)の時期を迎えている
4. 外材に比較して、国産材の流通経路が複雑

所有規模別 林業経営体

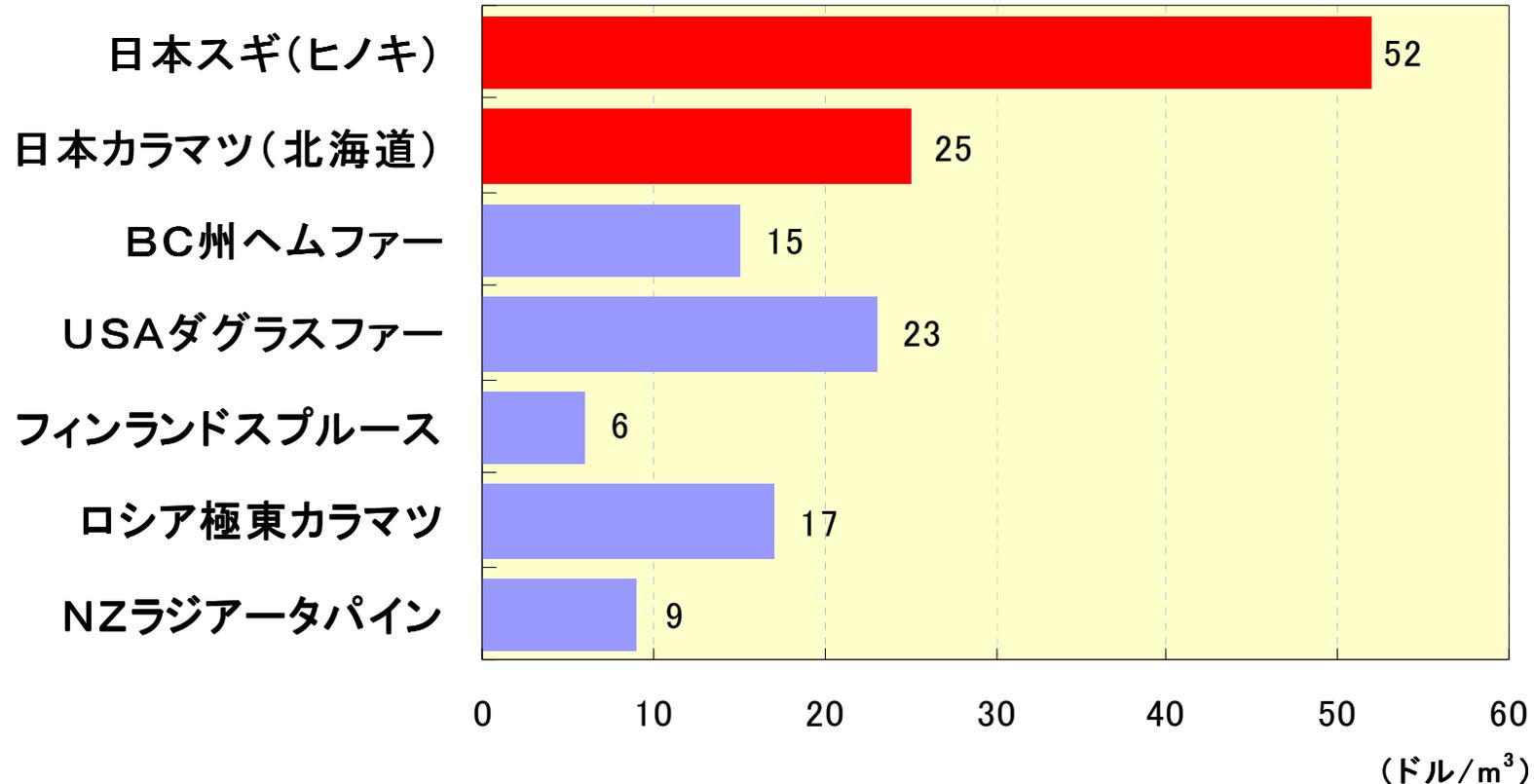


出所:農林業センサス



これまでの国産材流通は、多く段階を経て最終需要者に供給されるため、物流コストが嵩んでいた

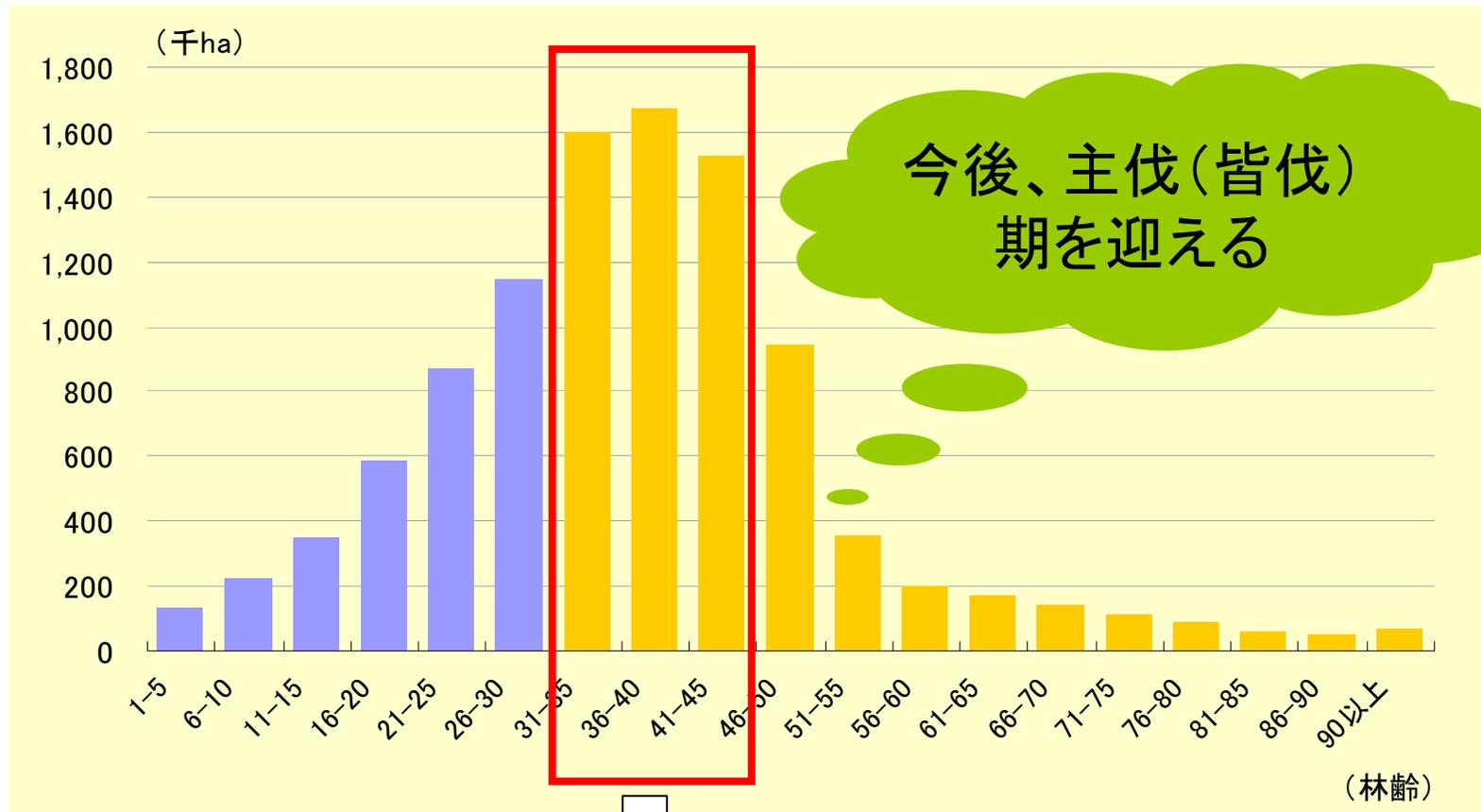
諸外国との主伐コストの比較



出典: THE TREE FARM AND MANAGED FOREST INDUSTRY 2003 Edition (DANA Publishing)

本州は急峻な地形かつ小規模な森林所有者が多い為、スギ/ヒノキのコスト競争力は低いが、北海道は諸外国と遜色ないレベルにある

日本の人工林



(林野庁統計資料)

間伐(一部皆伐)が必要

【今後の国産材の利活用に対する提案】

～川上～

1. コストダウン(機械の導入、作業道の整備)
2. 小面積皆伐による循環型林業の推進
3. 山林の団地化
4. 境界の画定(行政の指導必要)
5. 森林の適切なゾーニング
6. 市場(マーケット)に即した森林施業計画の見直し
7. 伐採後の再植林費用の補助金の充実 及び
低コスト造林の技術の確立

森林の適切なゾーニング

メリハリのあるゾーニング
により、林業経営が可能な
区域を明確化する

【ゾーニングの要件】

- ・立木成長力
- ・道路整備の難易度
- ・市場との距離
- ・希少性
- ・生物多様性

・・・など

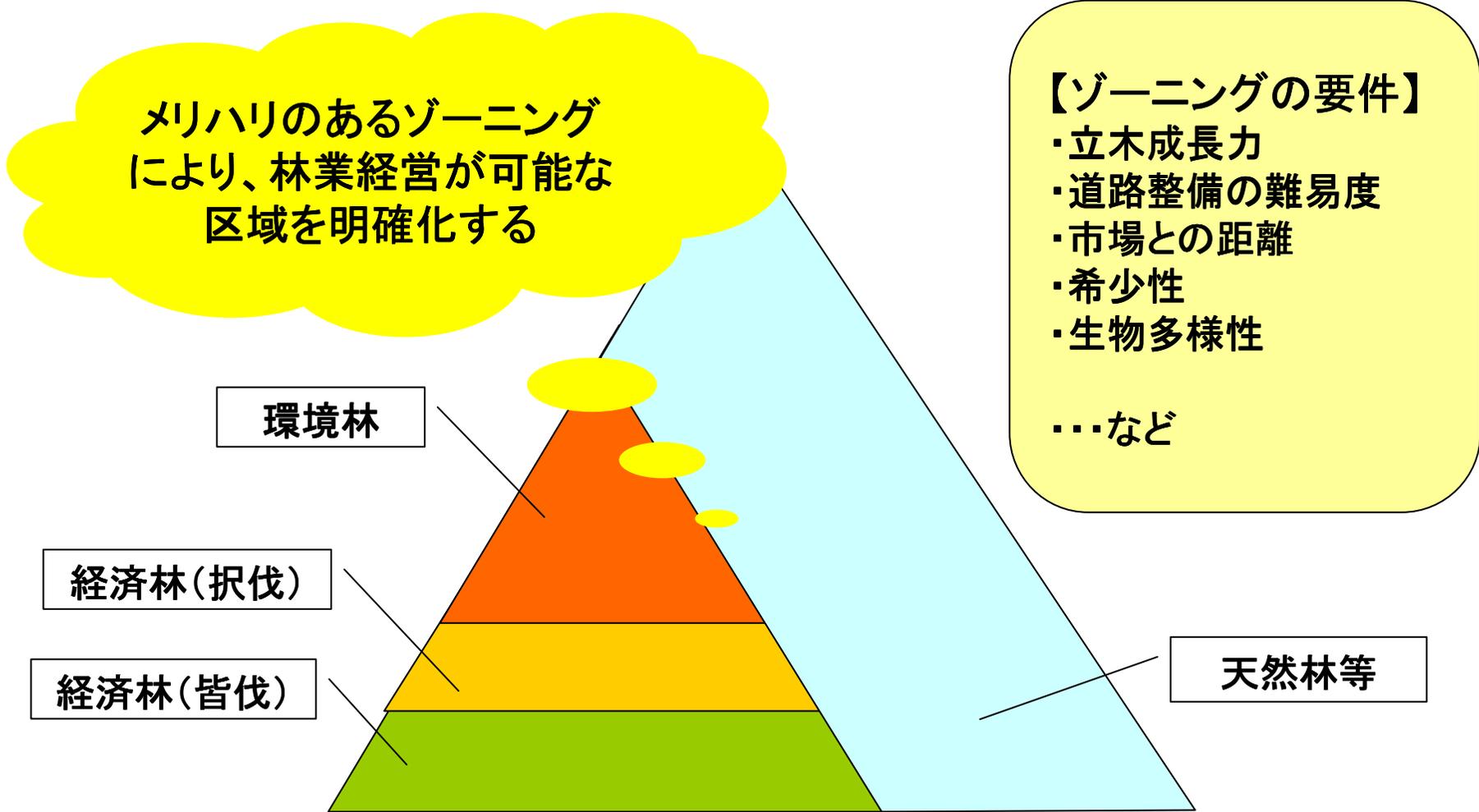
環境林

経済林(択伐)

経済林(皆伐)

天然林等

【森林ゾーニングの概念図】



市場に即した施業計画の見直し

- * 最近の用途の変化により、太径木の価値が変わった
特に、杉に関してはその傾向が顕著に現れている

例) 現状の径級別価格

30cmUP	合板用	¥8,000/m ³
24cm-28cm	製材用	¥12,000-13,000/m ³
16cm-22cm	製材用	¥11,000-11,500/m ³

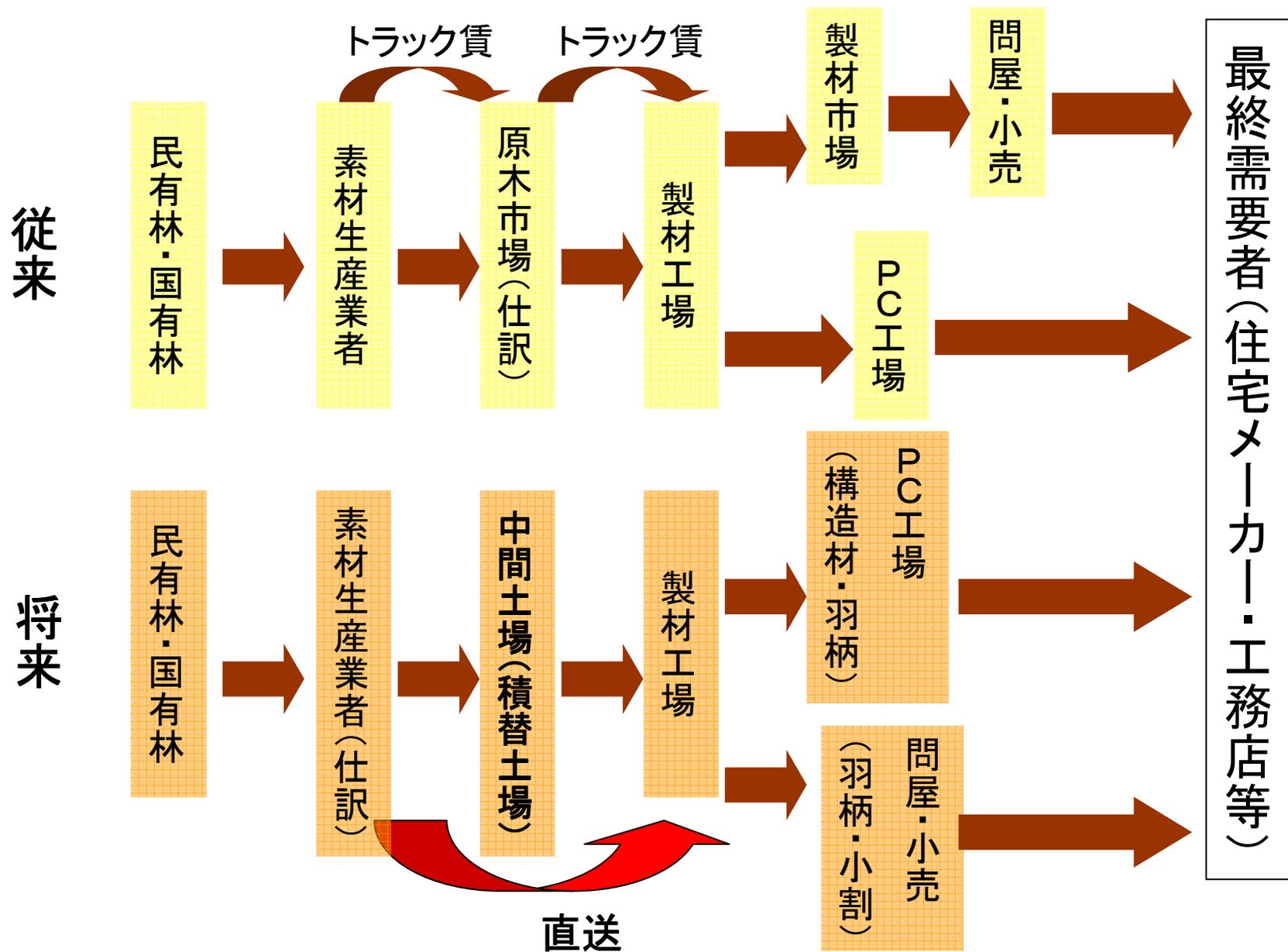
- * 今後の森林経営に関しては(特に杉/カラマツ等)、
施業計画の見直しや短伐期化が必要。
(林業経営の効率化)
- * 育てる林業から、伐って植える林業へ

【今後の国産材の利活用に対する提案】

～川中～

1. 流通の短縮（山土場仕分による直送等）
当社新居浜原木市場は、本年1月閉鎖した
2. 木材のカスケード利用
特に今後は、林地残材の有効利用が必須

木材流通の短縮化



【今後の国産材の利活用に対する提案】

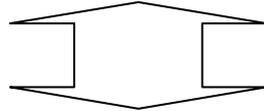
～川下～

1. 製材品のコスト競争力(工場の大規模化)
2. 市場に対する価格対応力・安定供給
3. 無垢材の品質に対する更なる技術革新
4. 無垢材の商品グレードの規格化
5. 土木・建築資材への用途拡大(型枠合板等)
6. 国産材住宅に対する行政よりの助成
7. 認証材(SGEC)製品の取組み強化

【流通業者としての所感】

1. 国有林野事業について

- 高い国有林の請負価格により、労働力が流れ、民有林が手薄になる。請負事業に振り回される格好。



- 国有林の請負事業で経営が成り立っている業者も多い。
- 国有林は、年度替りには出材無し。
- 国有林こそが、安定供給者・低コスト林業のモデルとなるべきでは。

2. 従来型国産材流通の特徴

- 原木市場が中核となる原木流通

市場の機能・・・ 保管／仕分け・検知／金融・与信

- 山側に交渉の習慣を持つ人が少ない→価格情報に敏感。交渉なしに販売先変更(安定供給の妨げ)。
- 高すぎる情報の公開度
- 地方自治体の介入(補助事業等)
- 強い地元意識・・・ 排他的な側面

- 契約感覚の欠如→無い物は仕様が無い。損をするから出せない。他の方が高いから出さない。
- 狭い国産材製材工場の原木土場→数量・価格が安定せず
- 製材工場適材の小さいストライクゾーン
→運送費・仕訳・検知等コストアップ要因
- 製材工場の製品土場も狭いところが多い
→製品市場依存・価格安定の阻害要因

以上